

こども未来会議

令和6年5月29日（水）

第12回

こども未来会議（第12回）

<委員>

（敬称略・五十音順）

氏名	所属
秋田 喜代美	学習院大学文学部 教授、東京大学 名誉教授
池本 美香	株式会社 日本総合研究所 調査部 上席主任研究員
石山 アンジュ	一般社団法人 シェアリングエコノミー協会 代表理事 一般社団法人 Public Meets Innovation 代表理事
大空 幸星	特定非営利活動法人 あなたのいばしょ 理事長
大谷 美紀子※	国連子どもの権利委員会 委員、弁護士 ※オンライン
小林 よしひさ	タレント（NHK「おかあさんといっしょ」第11代目体操のお兄さん）
松田 恵示	東京学芸大学 理事、神戸親和大学理事・学長

<ゲスト>

（敬称略）

野村 武司	東京経済大学現代法学部長 教授、弁護士 「ワールドキャンパス inアイルランド #つながる世界の10代」引率者
-------	--

訪問団

(敬称略)

あだ名	学年（3月時点）	班
ゆうな	高校3年生	団長
りょーや	高校3年生	ハンドブック班
もも	中学3年生	ハンドブック班
いちか	中学1年生	ハンドブック班
りゅう	高校1年生	こどもの居場所班
とみー	中学1年生	こどもの居場所班
ゆい	中学1年生	こどもの居場所班
さくら	高校1年生	日本の教育班
あやこ	高校1年生	日本の教育班
あつ	中学2年生	日本の教育班

本日の次第

- 知事挨拶
- 訪問団による発表
- 質疑応答

こども未来会議（第12回）

知事挨拶

本日のテーマ

- **アイルランドで私たちが学んだこと**

こども未来会議（第12回）

訪問団による発表

ワールドキャンパス in アイルランド #つながる世界の10代

目的

- 子供政策先進都市を中高生が訪問し、視察及び意見交換を行うことにより、条例の理念及び子供政策の理解を深める。
- 子供政策先進都市と東京の子供たちが交流することにより、海外都市との連携や国際的なネットワークの構築につなげていく。

参加者募集

渡航前
ワークショップ(5回)

アイルランド渡航
～現地視察・交流～

こども
未来会議

渡航概要

○時期：2024年3月26日(火)～31日(日) ○参加者：都内在住・在学の中高生 10名 (公募)

※渡航当時

< 現地での主な交流 >

Day1

ダブリン市
コーラナノーグとの交流

Day2

フォロイゲでの交流&
ユースアドバイザリーパネルとの交流

Day3

コーク市のコーラナノーグや
クリエイティブな若者との交流



多様な方法で子供の声を取り入れ、子供の参画に取り組んでいる国

* 全31行政区に、地域課題等について話し合う場＝コーラナノーグがある。

* 中高生向けの児童館のような施設＝フォロイゲなど、多様な「子供の居場所」がある。



引用：Google Mapsより



Theme 1

条例ハンドブック

こども編集者の意見を取り入れて作成した
東京都こども基本条例ハンドブック



内容の普及啓発についての難しさ、課題

➡ SNSでの更なる発信

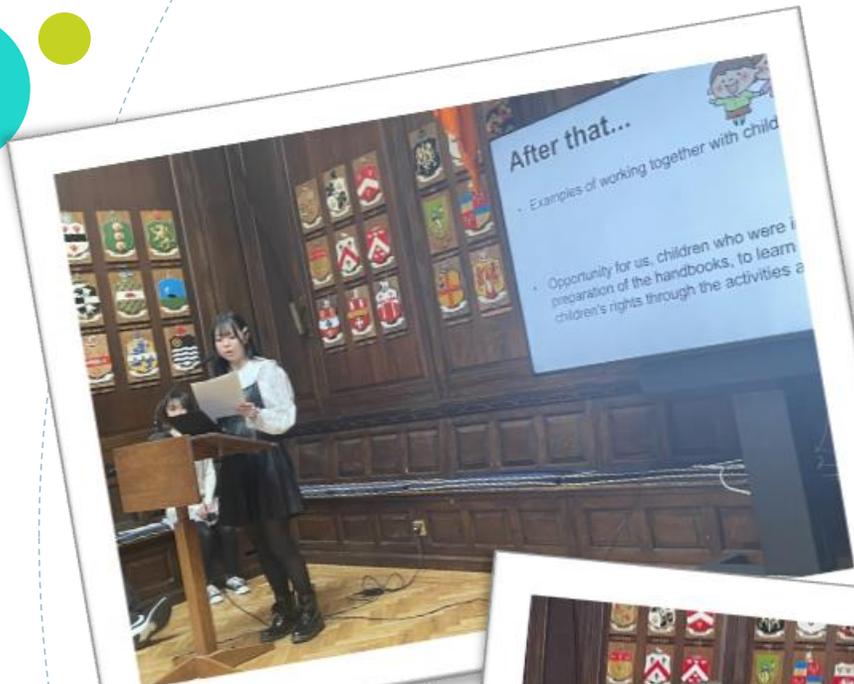


～アイルランドの子供達の声～

こども編集者の意見を取り入れている点👉good!

イラストを多用
➡視覚的に分かりやすい

➡ 幅広い世代にも伝わるような工夫を!



子供の意見を聴くためのラジオステーション



* ダブリン市公園部提供

Theme 2

子供の居場所

“安心できる・友達がいる・楽しい感情が生まれる”



日本からは

学校

フリースクール

公園

を紹介！

～アイルランドで私たちが聞いたこと～

学校だけでなく「居場所」の選択肢

多くの中高生が日常的に公園を利用

「子供の居場所」の定義が異なる

子供の想像力を活かせる場所



* 写真中央、下：ダブリン市公園部提供



Theme 3

日本の教育

(進学・学区制度・給食・デジタル)

コロナ拡大を背景にしたGIGAスクール構想

教育のデジタル化以上に「対話」が大切に

『自分の意見を
受け入れてもらえる!』



双方向型授業の実現

自分の意見が届いているのが
可視化がしづらい

デジタル化は「手段」であり、
本質的に人と向き合うには「対話」が必要



本日のテーマ

- **アイルランドで私たちが学んだこと**

こども未来会議

令和6年5月29日（水）

第12回